

独立行政法人国立病院機構  

**松江医療センター**  
**呼吸器病センター**  
 〒690-8556  
 松江市上乃木5丁目8-31  
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019  
 URL <http://www.matsue-medicalcenter.jp/>  
 発行責任者  
 院長 徳島 武  
 編集者  
 事務部長 嘉藤 一博



**出雲日御碕灯台 (いずもひのみさきとうだい)**

今年大遷宮を迎えた出雲大社の先の日御碕の突端に立ち、石積み灯台としては東洋一の高さ(43.65m)で、「世界の歴史的灯台100選」に選定。空と海の青と白亜の灯台が絶妙のコントラスト。360度広がる絶景は「日本の自然百選」の一つで、奇岩や絶壁など大迫力の景観が素晴らしい。

● **もくじ** ●

「肺疾患懇話会特別講演会」を開催いたしました！ …… 2	正面玄関前のツツジが満開！ …… 9
呼吸療法サポートチーム (RST) 始めました …… 3	栄養管理室から …… 9
総合診療棟建替工事の進捗状況 …… 3	地域医療連携室だより …… 10~11
「3D-CT」による肺手術の術前シミュレーション …… 4	2階病棟社会見学「由志園」に行ってきました …… 12
教育研修部から「教育研修部のKey references」 …… 5	3階病棟社会見学「松江堀川遊覧」に行ってきました …… 12
ATS2013学会記～梁山泊ならぬフィラデルフィアからの叫び～ …… 6	新人医師紹介 …… 12
看護フェアを開催して …… 7	開業医紹介コーナー …… 13
教育研修担当看護師長として頑張っています …… 8	しじみ会 (五月鯉のぼり号・六月紫陽花号) …… 13
健幸スマイル教室を開催して …… 8	外来診療表 …… 14
新人看護師紹介 …… 9	

**基本理念** 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。

# 「肺疾患懇話会特別講演会」を開催いたしました！

呼吸器内科医長・教育研修部長 門 脇 徹

去る6月10日（月）。ホテル一畑において、「肺疾患懇話会 特別講演会」を開催いたしました。おかげさまで大盛況の会となりました。ありがとうございました。



肺疾患懇話会は2000年8月から当院の症例検討会として開業医の先生方をお招きして始めた勉強会です。当院呼吸器内科・外科医師が当番で月に一度1時間の講演を行い、会を重ねてまいりました。2010年11月には100回記念講演会を催すなど、今となっては当院の“伝統”になりつつある勉強会です。

教育研修部は病院スタッフの教育部門ですが、院外への情報発信も担当しております。当院行事として行っていた講演会などの情報発信についてもその内容に一貫性を持たせるため、全て教育研修部発信と致しました。一般向けの「呼吸器市民公開講演会（旧「肺がんフォーラム」）、院外コメディカル向けの「松江呼吸器セミナー」、そして開業医の先生方を対象にしたこの「肺疾患懇話会」。“伝統”になりつつあるこの会です



特別講演（高知大学 横山教授）

が、ややマンネリ化のきらいがありました。今年からはそれを打破すべく、2ヶ月に一度と開催回数を減らす一方で、症例検討と講演という2部構成とし、内容を充実させることと致しました。また、年に一度は特別ゲストをお迎えして、院外で講演を行うことといたしました。

今回の「肺疾患懇話会 特別講演会」は肺疾患懇話会としては124回目となります。呼吸器内科の西川医師より症例発表を行った後に特別講演の演者として高知大学医学部血液・呼吸器内科の横山彰仁教授をお迎えして『気管支喘息診療の最前線』という御講演を頂きました。実は横山教授は私の研修医時代の指導医であり、大学院時代にも研究や論文のことで随分とお世話になった恩師なのです。さすがにわかりやすく素晴らしい講演で私自身非常に勉強になりました。

何と参加人数は72名！（うち当院スタッフ：36名）予想以上の参加を頂きました。お忙しいところ参加していただいた開業医・勤務医の先生方、そして薬剤師の先生方に心から感謝いたします。先生方の日常診療・



業務の一助となれば幸いです。また、遅い時間の開催にも関わらず駆けつけて頂いた当院スタッフの勉強熱心さに教育部門の責任者として嬉しくなりました。本当にありがとうございました。

今後もいろいろと御指導を頂きながらこの「肺疾患懇話会」を継続・発展させていきたいと考えております。ぜひ奇数月開催の「肺疾患懇話会」にお越しくください（詳細はHPをご覧ください）。また、御意見等ございましたら教育研修部までお寄せください。今後ともよろしく願いいたします！

## 呼吸療法サポートチーム (RST) 始めました

RST専任看護師 勝田 聖子

RSTとは、Respiratory Support Teamの頭文字をとった呼称で、呼吸サポートチームとも言います。主に人工呼吸器を装着している患者さんを対象に人工呼吸器を離脱するためのサポートを目的とされています。

全国でも急性期病院を中心にRST活動が普及しています。2010年診療報酬改正に伴い、「医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士等が共同して、人工呼吸器の離脱のために必要な診療を行う」ことで、「呼吸ケアチーム加算」が算定できるようになりました。このことがRSTの活動を後押ししています。「呼吸ケアチーム加算」による期待される効果としては、人工呼吸器関連肺炎の減少、人工呼吸期間の減少、再挿管率の減少などが挙げられています。

松江医療センターは呼吸器病センターとして、地域の呼吸器診療の中核を担っています。そんな当院こそ「呼吸療法」を中心としたチームを作り、より良い「呼吸療法」へとつなげていきたいという話が以前からありました。しかしながら、RSTを立ち上げるには一つ乗り越える壁がありました。それは専任看護師が必要であることです。ここでの専任看護師とは決められた6か月以上の研修を修了した看護師と決められているのです。昨年度、私が6か月間の慢性呼吸器疾患看護認定看護師過程の研修を修了したことにより、晴れて当院でのRSTを立ち上げることとなりました。

立ち上げに関しては、実は苦勞しました。RSTの規程作りなど事務作業も多く、チームを作るということは大変なんだと痛感しました。3か月間の準備期間中、メンバー全員で浜田医療センターのRST活動を見学に行き、実際の流れをつかむことができました。

「3か月の準備期間は正直短いよ…」と嘆きながらも苦勞を重ね、4月から本格始動へとつなげることができたのです。

さて4月となり初めてのRST活動、どうなることかと思いましたが、取り越し苦勞でした。多職種でのカンファレンスでは、多方面からの意見交換により、想像以上に充実したカンファレンスを行うことができます。

実際の活動についてお話しします。当院のRSTメンバー

は門脇呼吸器内科医長、笠置主任臨床工学技士、平野主任理学療法士、松本医療ソーシャルワーカー (MSW)、



伊東専門職と私です。当院RSTの特徴として慢性呼吸器疾患患者さんが多く、在宅へ向けてのスムーズな関わりを目的としてMSWにチームに入ってもらっています。対象は主に急性期の人工呼吸器を装着している患者さんになります。

RSTは毎週水曜日に活動しています。臨床工学技士が人工呼吸器装着患者の把握をしていますので、その情報をもとに私（専任看護師）が水曜日の午前中に病棟に赴き、患者情報を集めています。13時30分より、5階の研修室でRSTメンバーによるカンファレンスを行ったあと、回診で直接患者さんのもとへ伺っています。その後、RST診療計画書を作成し、検討内容を主治医や看護師へ伝えています。

これまで、急性期の非侵襲的人工呼吸器 (NPPV) を開始した事例が多く、人工呼吸器離脱計画や合併症予防、安全管理、包括的呼吸リハビリテーションの視点で検討しています。挿管事例ではなく、急性期NPPV事例が多いことも当院の特徴といえます。

また、急性期以外では慢性期の患者さんのNPPV導入や高流量酸素システム (ハイフローシステム) の導入なども行いました。

今後の展望としては、カンファレンスや病棟回診の継続を含め、研修等の実施や、マニュアル化など、院内の「呼吸療法」の充実に尽力していきたいと思っています。

ご興味のある方はいつでもwelcomeですので、毎週水曜日、5階病棟研修室でお待ちしております。皆さんで松江医療センターの呼吸ケアを盛り上げていきましょう!!

## 総合診療棟建替工事の進捗状況

企画課長 嘉数 和俊

4月号では地盤改良くい打ちの完了、掘削も完了間近、早い工区はスラブ配筋中と紹介しましたが、あれから3ヶ月が経ちました。

工事は一時地盤掘削の遅れ等もありましたが、4月以降の好天にも恵まれ予定を上回る早さで順調に進み、5月には基礎と1階のコンクリートも打ち終わりました。このあと6月から8月まで毎月1フロアずつ建

ち上がり、8月末には4階屋上までの躯体が完成します。9月からは内部仕上げに入り11月末には完成、12月15日に引き渡しの予定としています。

建物の外装は病棟と同系色を基調に、建物を見る方向によって印象が変わるよう外装色を施した配色とし、内装は病院のシンボルカラーの緑を含んだ白地を基調に木目調の壁と床材を使用し明るく暖かい雰囲気にま



H25. 6. 18現在

とめることとしています。

また、内部構造は外来ホールのメイン通路を吹き抜けとしており、1階中央ホールからは青空が見え、外来待合にも明るい光が入るなど開放感のある設計としています。

開棟まであと7ヶ月余りと残り少なくなり、これから工事も佳境に入ってまいります。皆さまにはこれまで以上のご不便やご迷惑をおかけすることと思いますが、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



外来メイン通路イメージ図 (プロムナード)



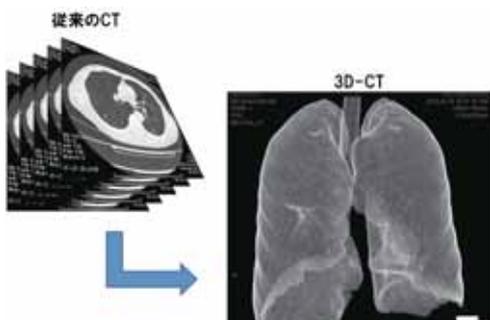
玄関及び受付イメージ図 (プロムナード)

## 「3D-CT」による肺手術の術前シミュレーション

外科医長 目次 裕之

当院では肺癌などの手術にあたり、「3D-CT」を利用して、術前に症例を詳細に検討することで、より安全な手術を目指しています。

近年のCTの性能の向上により、以前よりもはるかに高精細なCTの画像が得られるようになってきました。しかしながら一つひとつの画像は断面図であり、そこから立



体である人体の構造を理解するにはかなりの専門知識を要することには変わりはありません。そこで、最近では、より立体として理解しやすいように、CTで得られたデータをコンピュータ処理し、立体モデルとして再構築する「3D-CT」が行われるようになってきています。当院でも専用のワークステーションを導入し、治療法の検討や病変の評価に「3D-CT」を活用しています。特に、肺癌などの手術前の症例ではほぼ全例に「3D-CT」を作成し、術前の検討に使用します。

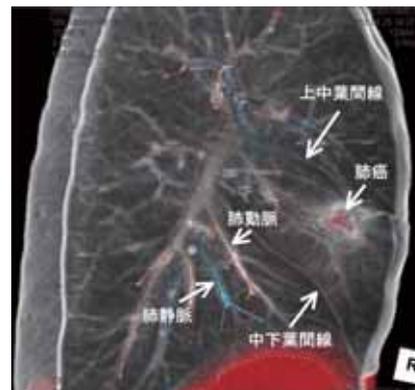
肺の血管は個人個人の変異が大きく、例えば肺動脈を例に取ってみても、枝の分岐する位置や数は千差万別です。手術においてはそれらの血管を損傷することなく処理する必要があります。特に最近では胸腔鏡による手術がほとんどであり、カメラによる限られた視野、手が入らず道具も限られる小さい術創といった条

件から、出血などの術中アクシデントはできるだけ避ける必要があります。

「3D-CT」の作成には特別な撮影方法等が必要なわけではありません。血管の走行を特に詳しく調べるために造影剤を使用しますが、当院で行う通常の造影CTで得られるデータで作成しています。実際のデータを図に示しますが、肺の血管と腫瘍との位置関係、気管支や上葉・中葉・下葉といった肺実質の構造などが把握しやすくなっています。

このように、肺の血管や気管支の位置や走行、上葉・中葉・下葉といった肺実質の構造やそれらと血管との位置関係など、事前に「3D-CT」で情報が得られていれば、より安全に手術を行うことが可能になるのです。

また、最近では縮小手術と言って、癌であっても必要以上に大きく切除するのではなく、必要十分なだけの切除範囲に留める手術が増加してきていますが、これについても「3D-CT」を用いてナビゲーションすることで、確実な手術が可能となってきます。将来的にはさらに「3D-CT」のデータと実際の胸腔鏡手術の画面とを重ねあわせ、隠れた血管や腫瘍の位置を把握したりすることも可能となり、より確実に安全な手術が可能となるでしょう。



# 教育研修部から

## -教育研修部のKey references-

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

医療教育研修室長時代から続くこの教育研修部のコラム。これまで一部の職員・患者さんにはご好評を頂いているようです。感謝です。今回のコラムはこれまでとは少し趣向を変えてみます。

いろいろな御縁から私は当院の教育部門の責任者をさせていただいております。が、私はいわゆる教育者ではありません。一介の呼吸器内科医にすぎません。当院に赴任するまでスタッフ教育に携わったこともありませんでした…。私が考える医療の理想は患者さん・御家族を中心として、その周りに医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師などの様々な専門家が取り巻くこと。そしてそれぞれの職種がprofessionalityを発揮して患者さん・御家族がhappyになるために医療の質を高めあっていくこと。“高めあう”ためにはそれぞれの職種において高い知識・技術を有していなくてはならない。そのためにはやはり質の高い教育が欠かせない。それには教育を専門とする部門が必要。このような考えを基に教育研修部の前身である医療教育研修室を立ち上げたのは医師として11年目、34才の春でした。みなさんに誇れるほどの経験も実績もありませんでした。それでも強くやってみようと思いました。やってみるとわかるのですが、教育の仕事は真摯に取り組めば取り組むほど身を削る仕事です。試行錯誤の立ち上げ当初私が大事にしていたのは、コンセプトと組織づくりでした。今回のコラムでは私が教育部門立ち上げそして運営に際して参考にした書籍の数々を記したいと思います。

コンセプト・組織作りには有用であったのが以下の3つ。まずはこれですね！P.F.ドラッカー著：『プロフェッショナルの原点』（ダイヤモンド社）。しばしばこのコラムでもドラッカーを引用させていただいています。「強みを活かす」「自らのなすべき貢献は何かと問う」「最も重要なことに集中する」…などなど。教育部門のコンセプト、そして組織づくりにドラッカーのこの本からたくさんのヒントを得ましたし、困った時には今でも繰り返しこの本に戻っています。

2つ目は…波頭亮著：『プロフェッショナル原論』（ちくま新書）。2010年7月号の「突道湖」にもこの本を基に“医療現場における『プロフェッショナル』考”として書かせていただきました。この考えには現在も変わりがありません。教育研修部は様々な職種における“プロフェッショナル”を育成したいと考えております。この“プロフェッショナル”考は毎年新人研修で必ず話をさせていただいております。私が教育において大事にしている重要なコンセプトの一つです。

教育に携わる者として好きな言葉があります。「教育の根底にあるのは、あこがれの伝染である。何ものかを価値あると認め、そこに心のエネルギーを注ぎ込む。何ものかを目指して飛ぶ、矢のようなベクトル。それがあこがれだ。心引かれるものがあるからこそ、努力しようという向上心が湧く。あこがれが根底にあるからこそ、技を習得する意欲も生まれる。」TVでもおなじみの明治大学教授である齋藤孝著：『教育力』（岩波新書）の冒頭の一節です。2011年12月号「突道湖」で引用させていただきました。若い職員にはぜひ身近に“憧れ”の先輩を見つけていただきたいし、中堅・ベテランさんには若手に背中を見せてほしいと思います。

実際の運営に際しては当初は責任者である私自ら講師として話す機会を多く設けました。これは教育部門発足の宣伝も兼ねてということもあるし、皆さんに教育に関して関心を持っ

てもらいたかったから。少しずつ表舞台からは身を引いて（笑）、今はできるだけ裏方に徹する努力をしております。皆さんに私の思いが届くよう試行錯誤をする過程で読んだのは…。藤沢晃治著：『「分かりやすい説明」の技術』『「分かりやすい教え方」の技術』（両者ともにブルーバックス）。この著者は他にも「分かりやすい」シリーズをいくつか記しておりますが、「分かりやすさ」において重要な要素はシンプルかつ合理的、そして情報のサイズが小さい、というものです。新人教育で悩まれている方は後者を読んでみてください。参考になることが多々あると思います。

教育研修部では研修の内容に応じてワークショップ形式を取り入れています。この形式を始める際に参考にしたのが、中野民夫著：『ワークショップ』（岩波新書）。少し難しいのですが、終わりの方に具体的な会場設営の仕方とかワークショップの進め方などの記載があります。ここだけでも読むといいだろうと思います。受動的な講義形式より参加型のワークショップ形式の方が教育効果が上がることも多いので、必要であれば今後も積極的に採用したいと思います。ただ、ワークショップ形式はより周到に準備をする必要があり、主催者側の負担が大きくなります。この辺りをどうするか？というのが難しいところです。

次にプレゼンテーション。誰も信じてくれないのですが、私はあがり症です。今は随分克服できました。大学院時代には師匠に常々「おまえは緊張しいやなあ」と学会発表のたびにダメ出しをされていました。悔しかったこともあり、緊張しないような努力をしました。そのおかげで少しずつ人前で話すことに対する苦手意識が取れてきました。当院に赴任してからは院内外で講演する機会をたくさん頂いたので、いろんなことを試しているうちに自信がついてきました。私自身プレゼンがうまいとは思っていませんが、努力は必ず報われると思っています！その努力の過程で出会った本は先ほどの『「分かりやすい説明」の技術』（ブルーバックス）。これはプレゼンがうまくなりたいと思ったら絶対に読むべき本だと思います。プレゼンテーションは相手に伝わってなんぼだからです。そして、私は論文もプレゼンの一つだと考えています。スライドづくりも論文づくりも実は同じ方向性を持っており、準備過程では変わらない部分があります。その辺りを記しているのが、黒木登志夫著：『知的文章とプレゼンテーション』（中公新書）。若いDrに進めたい本です。そしてプレゼンと言えば皆さん御存知スーパーマンのスティーブ・ジョブズ。これはカーマイン・ガロ：『スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン』（日経BP社）が有名です。私は動画サイトのYouTubeでiPhone発売のプレゼンを何度も何度も見ました。すごい！当然こんな“神”の領域には到達できないのですが、何事にも“憧れ”は大事です。こんな風に聴衆をひきつけられるプレゼンをいつかしてみたい、そんな風に思っています。

スライドの作り方について。これはいろんな本があります。PowerPointの使い方などを記した本は山のようにあります。使いたない方は何でもいいので読まれるといいと思います。私自身、ここに来た当初は皆さんの関心を引くべくお笑い芸人のネタを仕込んでみたり、アニメーションを必要以上に駆使したりと小ネタ小技を散りばめておりました。今も少しは使いますが、スライドを作れば作るほど小ネタが減り、少しずつシンプルになってきました。昨年あたりから今後のスライド作りの方向性に若干の迷いが生じていたのですが、愛媛時代の医局の先輩の先生に教えていただいたこの本で頭がスッキリ。ガー・

レイノルズ著：『プレゼンテーションzen』(PEARSON)。禅の心をプレゼンに応用する試みの名著です。アナログ的に考え、シンプルに伝える。デザインやコンセプトの練り方まで言及している素晴らしい本です。少しずつではありますが、この本に記されている手法を取り入れています。美しく、聴衆に伝わるスライドづくりを目指す方にはお勧めです。

壁にぶち当たることもあります。前号の「穴道湖」では“ど根性”を説きましたが、それでもよくよしちゃうこともあります。そんな時にはアレクサンダー・ロックハート著：『自分を磨く方法』(Discover)とその続編であるスティービー・クレオ・ダービック著：『新自分を磨く方法』(Discover)。迷った時、前が見えなくなった時、辛い時etc. Negativeな感情が湧いてきた時に読むと癒されるのです。

ということで、今回は私が教育部門のコンセプト・組織づくり、運営などなど自分の頭の中で教育の仕事の“屋台骨”になっている書籍を紹介させていただきました。これらは常にデスクの前の本棚に置いています。私の宝物です。教育研修部の未来予想図を描き続けることが私の仕事です。絵を描くためには筆も絵具も必要です。これから出会う本の数々がその“筆”や“絵の具”になってくれることでしょうか。教育研修部の責任者として今後も当院の現状や変化に即した運営を心掛けたいと思っています。念のため、紹介した書籍に関して利益相反がないことを開示して今回のコラムをしめたいと思います。最後まで読んでくださった皆さん！面白い本があったら是非教えてくださいね！

## ATS2013学会記

### ～梁山泊ならぬフィラデルフィアからの呼び～

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

5月17日～22日の間フィラデルフィアで開催されたアメリカ胸部疾患学会(American Thoracic Society: ATS)に参加し、研究発表をしてきました！自身ATSでの発表は3回目。国際学会での発表は5回目、ということもあり、発表の準備からも比較的リラックスして臨めました。やはり何事も経験、ですね。フィラデルフィアは、アメリカ建国の街であり、近代医学発祥の地とも言われています。そんなパイオニア精神を感じることができる場所であること、また私はこれまでサンディエゴ、ロスアンゼルス、サンフランシスコとカリフォルニア州しか行ったことがなく、東海岸は初めて。そういう意味でも随分前から今回のATSを楽しみにしておりました。

最近のATSでは連日各分野この1年間に進歩した治療や検査法、疾患原因の究明に関する研究内容を「Year review」という形でまとめてくれるセッションがあります。これが非常に秀逸！頭の整理にもなるし、自分が明るくない分野の解説もしてくれるためにとっても勉強になるのです。朝8時台と早いセッションなのですが、滞在期間中は連日のこのセッションに参加し、新しい知識を吸収してきました。やはり勉強は楽しい！

さて、私の発表はとある疾患に対するNPPV(非侵襲的陽圧換気療法)の有効性をみた研究です。以前勤務したNHO愛媛医療センターとの共同研究です。この疾患に対するNPPVについては、データが少なく、時にchallengingな治療になりうるのですが、しっかりと

対策を立てた上で経験十分なスタッフが治療にあたれば十分対処が可能です。当初予想していたよりたくさん質問をいただきました。座長はBrochardというこの領域では大家の先生。論文で名前しか見たことのない高名な先生と直接やり取りができたのは少し緊張したものの、非常に大きな収穫

でした。Brochard先生からは「この分野では報告が少ないから、データを増やしてぜひ論文の形にしてほしい」という非常に前向きなコメントもいただくことができました。さらに研究を深めてエビデンスの一つとなるようなものに仕上げたい、と考えています。

今回は移動時間が長く、思ったより空いた時間はありませんでした。しかしせつかつくので観光を少し。フィラデルフィアは一言で言うと「アメリカにしては、ヨーロッパの香りのする街」。ホテルの前に鎮座する大聖堂。通りに出れば見える街のシンボルの市庁舎。そして、何だか深い、LOVEの文字が立ちのぼる公園。その向こうの丘に見えるフィラデルフィア美術館。街のリズム感がヨーロッパ。

そのフィラデルフィア美術館にはモネ、ゴッホ、ピカソなども“普通に”展示してあります。規模も大きく、すごい。でも、私がイチバン逢いたかったのは美術館の外に展示してあるロッキー像(笑)。あのシルベスター・スタローン主演の映画「ロッキー」にこの美術館の大階段が出てきます。ロッキーはこの階段でトレーニングするのです…。今やこの階段は“ロッキーステップ”と呼ばれているそうです。こうして日常から遠く離れるとふとした瞬間にいろんなことを思います…。楽しいこともたくさんあるけれど、それと同じくらいしんどいこともある。でも、頑張っていればいいことがある！だから、ロッキーのように不屈の魂で頑張ろう！ロッキーの横でガッツポーズをしながら、



心の中で「エイドリアー——ン！（ちょっと違うけど）」と叫ぶ私でした。

最後に…。この貴重な経験は当院において私が関わる診療・教育・研究に必ずフィードバックし、当院の

更なるレベルアップに貢献いたします。同行の矢野副院長、そして不在の間カバーしていただいた呼吸器内科の先生方をはじめ、全ての病院スタッフに感謝をして筆をおきたいと思います。ありがとうございました！

## 看護フェアを開催して

教育研修担当看護師長 山本 純子

ナイチンゲールの生誕日にちなんで制定された「看護の日」の5月12日にあわせ、当院では毎年、地域の方々への健康応援と共に、地域に根差した当院の医療についての紹介をかねて看護フェアを開催しています。

院内においては、ナイチンゲール像を外来待合室に置いて、外来受診患者さんにはメッセージカードを配布し、入院患者さんには、受け持ち看護師が受け持ち患者さんへメッセージカードを記入してお渡しています。

今年も5月9日、松江市にあるスーパーマーケット「みしまや」の店舗前広場をお借りし、看護フェアを開催致しました。当日は五月晴れの清々しい好天に恵まれました。事務職員の方々の協力でテント設営を行い、看護師広報委員の新メンバーと各部署からの応援で、スムーズに会場設営を行いました。

健康応援の内容としては、血圧測定、身長・体重測定、体内脂肪測定、骨密度測定を行い、その結果をもとに、医師による医療相談、看護師による看護相談、栄養士による栄養相談をお受けしました。総勢75名の方に参加していただきました。ある方は、年齢を重ねるにつれて弱くなる部分を意識し、フィットネスクラブに通っておられ、多くの人と関わることの楽しさを伝えて下さいました。また、「健康維持のために毎日散歩をしています。食事の時は野菜を先に食べるようにしています」「魚は苦手だけど缶詰めで摂るようにしているけど、缶詰ではだめでしょうか」などと質問

もあり、健康維持のために気を遣っていらっしゃる方が多いと感じました。また医療相談では「症状が続いているけれども病院に行くのが怖い」「今一緒に来ている夫の検査値のことが気になるので教えてください」と質問もあり、医師が十分に話を聴いて、アドバイスをを行い安心して頂きました。

参加された方には、当院の御案内、肺がん検診の案内、最新の放射線治療システム、最高速のマルチヘリカルCT装置、受動喫煙のパフレットと看護の日のイラスト入りカット絆を配布しました。また7月6日（土）に当院主催で開催予定の「呼吸器市民公開講演会」のパフレットも「みしまや」に来られたお客さん220名の方が受け取って下さいました。「今日は時間が無いから測定はしないけれど、これ（呼吸器市民講演会）には行きます」と言って下さった方もいらっしゃいました。

院外でこのように、地域の方々と接してお話する機会を得たことで、ケアの心、助け合いの心、看護の心を深め、ますます地域の方々の健康応援に対する意識が私自身も高まりました。そして、地域に根ざした病院として今後も健康応援に取り組みたいと思います。

今年も看護フェア開催を快く受けて下さいました「みしまや」様に深く感謝申し上げます。



健康相談



栄養相談



血圧測定



体内脂肪測定



骨密度測定

良いですねえ

## 教育研修担当看護師長として頑張っています

教育研修担当看護師長 山本 純子

平成25年度がスタートし約2ヶ月が過ぎました。不安と緊張で初々しかった新人看護師達も先輩看護師の指導を受けながら全員が少しずつ自立してきています。私自身も新人教育研修担当看護師長として見切り発進し2ヶ月が過ぎました。昨年度までは病棟看護師長として教育を現場の看護実践にどのように活かしたら良いかという視点で関わってきました。今年度は立ち位置を変え、現場との連携を行いながら教育を企画・運営する役割を担うことになりました。約2ヶ月があつという間に過ぎましたが、この2ヶ月を振り返って教育研修担当看護師長として見えてきた事を整理し振り返ってみたいと思います。

まず1点目、多職種が質の高い医療の提供を目指して相互に教育に関わっている事が実感出来ています。4月以降既に数回の研修を行いました。看護部だけではなく、臨床工学技士や検査技師、薬剤師、医師など多職種の協力を頂いています。また今年度から活動を開始している院内認定看護師の協力も得ています。研修生にとっては専門性の高い知識と技術を得ることが出来ています。一方で院内認定看護師にとってはその資格を活かす場になっています。これはまさに、「多職種が質の高い医療の提供を目指して教育に関わる」という教育研修部の活動目的そのものだと思います。今年度も院内認定看護師を目指している看護師を対象に研修がすすめられています。集合研修や現場教育に活かされることが期待できます。また教育研修部では事務の方にアンケートの集計や、データのまとめをタイムリーに行ってもらっています。今までオーバーワークになっていた業務も効果的に整理出来ています。

2点目は新人看護師との関わりを通して、教育研修担当看護師長としての仕事の楽しさを実感していることです。夜勤を前にした新人看護師はリアリティーショックや夜勤前の不安で一杯だろうと想像していましたが、面接をしたときに「厳しく指導されることもあるが、楽しい」「希望した病棟の配置ではなかったが、患者さんとの関わりが楽しく、今はこの病棟で良かったと思う。楽しい」と笑顔で答えてくれた新人看護師もいました。新人看護師達は多くの課題を抱えながらも前向きに、やりがいを感じながら頑張っています。新人看護師と面接を行うことで、私も元気がもらえました。

教育研修担当看護師長として病棟ラウンドをしたり、他部署の職員とイベントの打ち合わせをしたりと、より多くの人と関われるようになったこともやりがいに繋がっています。私も新人看護師と共に新たなスタートを切り、課題に前向きに取り組み、達成感が得られるように頑張りたいと思います。



先輩看護師も協力し  
そして実習日に勉強中

事例に講義を聞いています

救急蘇生実習中!

医療機器認定看護師の  
指導を受けています

## 健幸スマイル教室を開催して

地域医療連携係長 山崎 みどり

去る4月15日(月)、平成25年度第1回健幸スマイル教室を開催し、20名の参加がありました。「笑顔があふれ幸せな生活を送っていただきたい」との思いを込めて、昨年度から行っていた「健康教室」の名称を改め「健幸スマイル教室」としました。

第1回は、5階病棟のデイルームで「転ばない知恵」と題して、松本麻衣子看護師が講師を務めました。入院され慣れない環境の中で転倒しそうになったり、また転倒することがあります。そこで、患者さんやご家族の方に転倒転落防止に対して意識を高めていただき、安全な入院生活を過ごしていただくことが出来たらよいと願って行いました。デイルームにベッドやオーバーテーブル・ポータブルトイレなど準備し、いつもの病室環境を再現して、ベッドからの起き上がり方、ベッド柵の使い方、滑りにくい履き物の説明など実演しながら行いました。「転びやすいのはどんな時? 転ぶのを防ぐにはどうしたらよいの?」について患者さん、家族の方と楽しく学ぶことが出来ました。参加者の中から質問もあり、関心の高い教室になりました。

これからも毎月第3月曜日に色々なテーマで健幸スマイル教室を開催します。皆様の参加をお待ちしています。



# 新 人 看 護 師 紹 介

看護部長 坪 嶋 美恵子

平成25年4月新たに22名の新人看護師が採用になりました。今年は例年になく桜の開花が早く、4月には葉桜になるのでは？と心配しましたが、この時期に合わせたかのように満開の桜が新人看護師達を迎えてくれました。新人看護師達はみんな明るく元気に職場にとけ込んでいます。6月からは徐々に夜勤入りを開始し、諸先輩から指導を仰ぎながら、一つひとつ日々学んでいっています。

新人看護師達は数年後この桜のような大きな幹となり、松江医療センターを支え、きれいな花を咲かせてくれることでしょう。この笑顔と力

強い拳が「これから私たちが、松江医療センターを支えていきます!!!」と宣言してくれました。

皆さん、どうぞ宜しくお願いいたします。



## 正面玄関前のツツジが満開！

院長 徳 島 武

病院の正面玄関前の、ロータリーの車道沿いに咲くつつじが5月の連休に満開になった。朱色、淡いピンク、白色のつつじがきれいに咲きそろい、外来患者さんはもちろん、入院患者さんや通勤する職員たちを優しく迎えてくれている。またロータリーが囲む楕円形の庭園の中にある、古松や紅葉の木々、庭石や灯籠ともうまく調和して当院の歴史をじっと見守ってくれているようだ。現在病院の後方では、本年12月竣工予定で新総合診療棟の工事が順調に進んでいるが、この庭園や桜の古木は是非とも残しておきたい。そしてこれからも、新しい病院の歩む歴史をしっかりと見てくれていて欲しいと願うものである。



## 栄 養 管 理 室 か ら

### 「お花見寿司」 栄養士 古 川 ひとみ

去る4月3日（水）、寒い冬が通り過ぎ、例年よりも早く、桜の花が満開となりました。それに合わせ、栄養管理室では恒例のお花見寿司を提供させていただきました。今年も無事にお花見寿司を提供することができましたことに感謝申し上げます。

お花見寿司は普段のお食事ではなかなか提供しないような具材を使用し、ひとつひとつをすし折に盛り付け、桜が一面に咲き誇る帯にメッセージを添えた、華やかな仕上がりとなりました。

栄養管理室のスタッフが一丸となり、ひとつひとつ心を込めて作製致しました。

外でのお花見が難しい患者さんにとって、少しでも外の桜を感じて頂けるようなお食事となったのではないかと考えております。

\*メニュー\*

- ◇お花見寿司 ◇吸い物
- ◇菜の花のお浸し ◇オレンジ・チェリー缶



# 地域医療連携室だより 第13号

2013年7月



## 1. 地域医療連携の状況について ～その1～

経営企画室長 山根 知己

当院では、地域の先生方に国立病院機構松江医療センター・呼吸器病センターをより身近な病院としてご利用いただき、地域の先生方と協力して患者さんに安心される医療を行うこと及び当院診療圏域の医療、保健、福祉等関係施設との連携を図り、地域医療に貢献することを目指して地域医療連携室を設置しております。

今般、平成24年度の地域医療連携にかかる統計がまとまりましたので、ご紹介させていただきます。

### 1. 紹介患者数

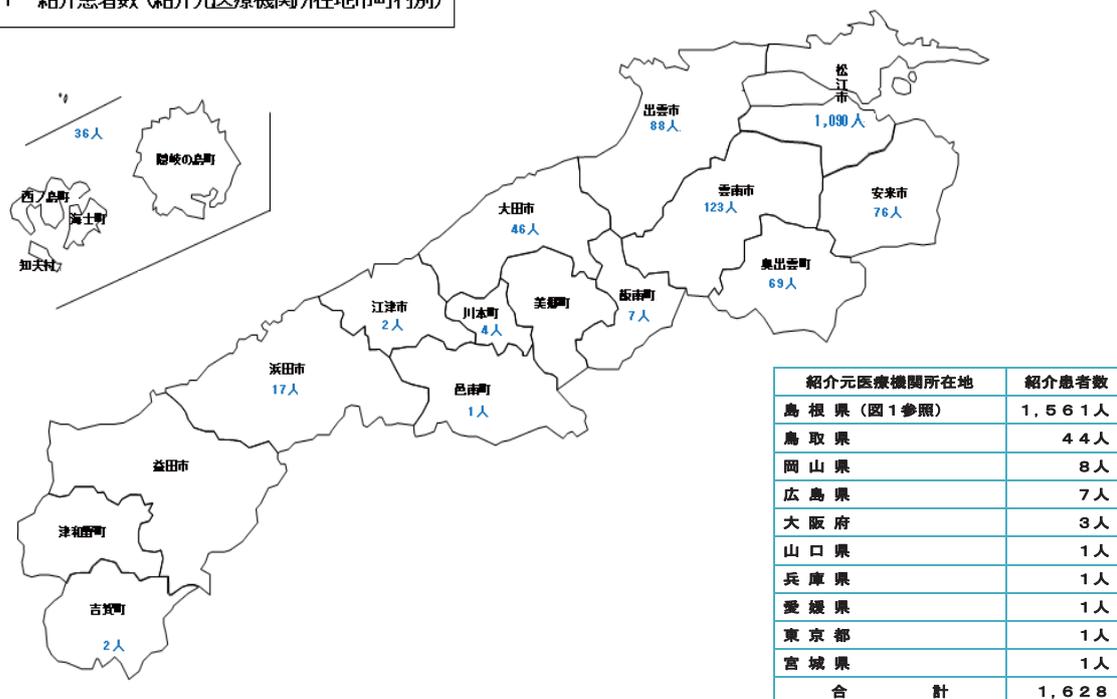
1年間で249の病院・診療所等の先生方から1,628人の患者さんのご紹介を頂きました（紹介率：71.4%）。診療科別では内科：1,373人、外科：104人、放射線科：59人、神経内科：50人、小児科：39人、消化器科：1人、内科及び外科：2人となっております。このうち、385人（23.6%）の患者さんに対して入院治療をさせていただきました。

紹介元医療機関を地域別でみると、松江市が1,090人と一番多く3分の2（67.0%）を占めています。次いで雲南市：123人、出雲市：88人、安来市：76人、奥出雲町：69人となっており、大田市：46人、浜田市：17人等島根県西部地域からもご紹介いただきました。更には、中国地方の他県からや遠くは愛媛県、大阪府、東京都、宮城県からもご紹介いただきました。（図1）

### 2. 逆紹介患者数

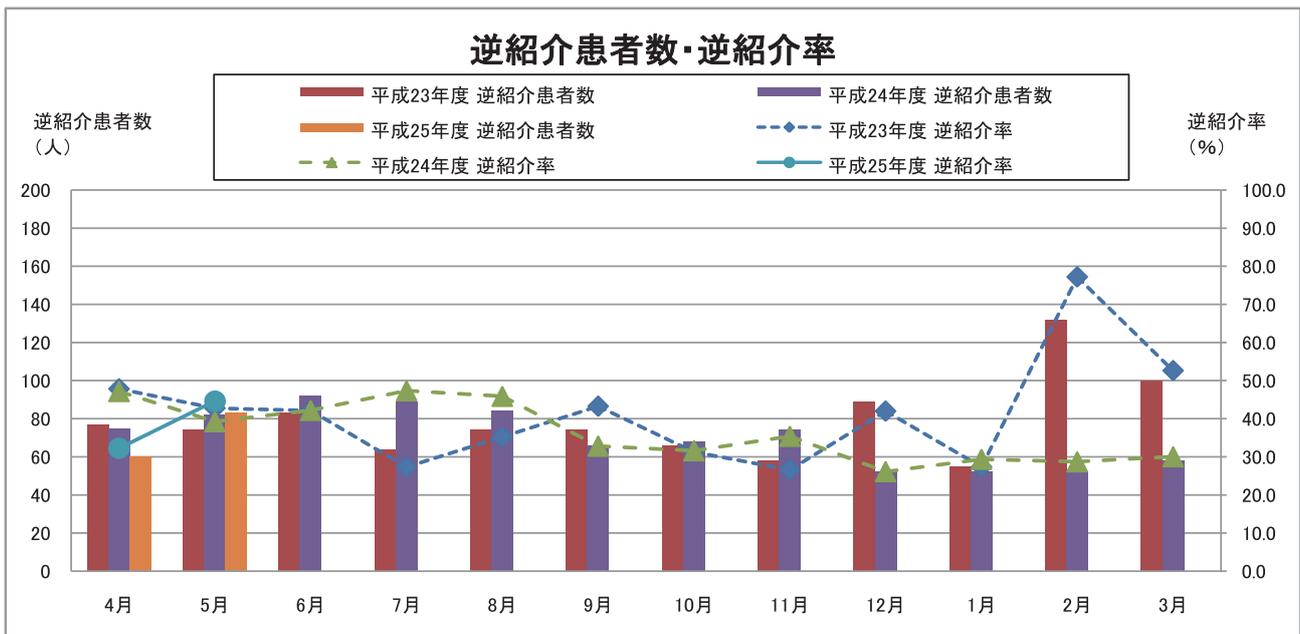
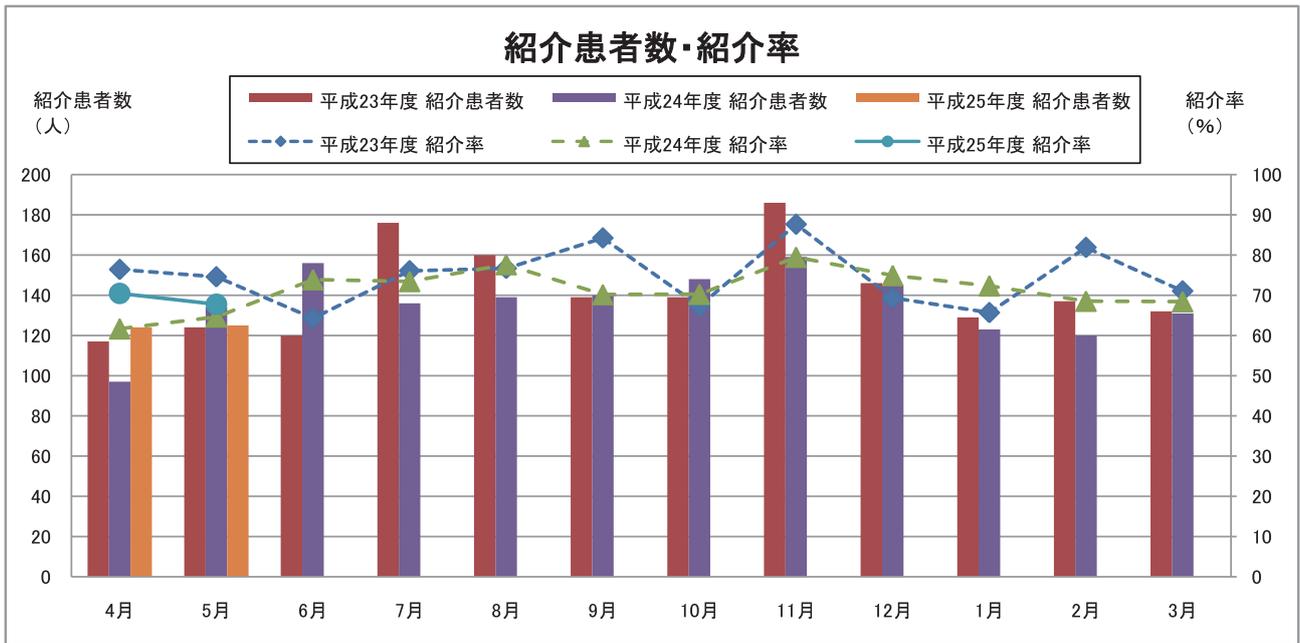
1年間で844人の患者さんを診療所の先生等に逆紹介させていただきました。（逆紹介率：36.2%）診療科別では、内科：596人、外科：116人、神経内科：63人、小児科：69人となっております。

図1 紹介患者数（紹介元医療機関所在地市町村別）



今後とも地域の先生方のご協力をいただきながら、地域医療連携室一同力を合わせ、地域住民の皆様が必要な医療を受けられるよう、迅速・丁寧・真心をこめた対応を心がけ努力してまいりますので、引き続き宜しくお願いいたします。

## 2. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



## 3. 退院支援データ

毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者	41人	46人										
退院先												
在宅	3人	10人										
施設	7人	0										
病院	3人	1人										

## 2階病棟社会見学「由志園」に行ってきました

保育士 高橋 朋子

5月2日（木）、大根島にある「由志園」に行ってきました。心配していた天候にも恵まれ、交通渋滞もなく行く事が出来ました。庭園内にも観光客の方たちはおられました、スムーズに回れ、この時期にしか見ることが出来ない牡丹を鑑賞することが出来ました。園内の池や庭園は牡丹と季節の花々でいっぱい、間近で見る牡丹の美しさに感動するばかりでした。患者さんもお家族と一緒に楽しんでいただけたのではないかと思います。



## 3階病棟社会見学「松江堀川遊覧」に行ってきました

保育士 渡部 みどり

5月23日（木）、青葉若葉が目にしみるすがすがしい季節、松江城を取り囲むお堀を船で約40分周遊して来ました。夏を思わせる日差しに“暑さ”を心配しましたが、川面を渡る風を心地よく感じ、水辺を彩る樹木や水鳥、亀などを見ることができ、参加された皆さん自然を楽しむ事ができたと思います。特に、低い橋の下で体がかがめながら通る時、満面の笑顔で喜んでおられた姿が印象的でした。水上での社会見学を安全に終えることができ、皆さんに感謝します。ありがとうございました。



### 新人医師紹介



- ①氏 名：板村 真司
- ②診療科：小児科
- ③経 歴：H19年香川大学卒業、  
広島市立安佐市民病院初期研修終了、  
広島市立広島市民病院小児科後期研修終了、  
H24年4月～鳥取大学脳神経小児科
- ④専 門：小児
- ⑤趣 味：読書
- ⑥ご挨拶：宜しくお願いします。



●●● 開業医紹介コーナー ●●●

病病・病診連携

勝部医院



当院は松江市の橋北、春日町にあります。

私自身の専門は気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患ですが、基本は内科医ですので内科一般の疾患を診ています。日常的には咳嗽が続く慢性咳嗽を訴えて来院される患者さんが多く胸部レントゲン検査を行う機会が多いので肺野の異常陰影に出会う頻度が他の科の先生より多いと思いますが、その時にはやはり松江医療センターの地域医療連携室にお願いしCT検査をしていただき放射線科専門医の先生からのコメントを頂き診断、治療に役立てています。

又、精査が必要な時は副院長の矢野先生、池田先生をはじめとする呼吸器内科の先生方に紹介させていただき大変助かっています。

また紹介した患者さんの満足度も高く、安心して紹介できる呼吸器専門病院だと思います。

(勝部医院 勝部 晋)



(勝部院長先生、スタッフのみなさま)

勝部医院  
院長 勝部 晋  
〒690-0877  
松江市春日町365番地3  
電話 0852-27-5800  
休診日 日曜・祝祭日 木・土午後



しじみ会 【五月鯉のぼり号・六月紫陽花号】

- ・山つつじ 屏風如くに 咲き揃い  
となりの住人
- ・縁結び ブームで賑わう サンライズ  
白イルカさん
- ・かたくりに 魅せられ歩む 登山道  
やどかりさん
- ・桃色の カリンの花で 初夏を知り  
カラス貝さん
- ・初物と そら豆、えんどう 店びらき  
SNさん
- ・満開の さくらが誘う 車椅子  
コスモスさん
- ・日本では 条約ラッシュ 維新の様  
「Kさん」
- ・枯れ木から 芽吹く緑に 心浮き  
「N」さん
- ・風吹いて 抜ける青空 薄暑かな  
京の静さん
- ・机立ち 拍手求める 一歳児  
小次郎さん
- ・裏磐梯 桜の花と 鯉のぼり  
愛佳さん

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成25年 7月 1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域	
呼吸器内科	曜日	神田	小林	木村	門脇	池田	【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 神田 響 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子	
		多田	神田	岩本		木村		【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
		矢野	門脇	池田	矢野	小林		
神経内科			下山		足立芳樹		【神経内科】 足立 芳樹 下山 良二	
外科	徳島		目次			足立洋心		【臨床研究部長】神経内科 神経内科・リハビリテーション
小児科	発達専門外来	久保田 (予約)	齋田 細田 (予約)	齋田 (予約)	細田 久保田 (予約)	齋田 (板村) (予約)	【外科】 徳島 武 目次 裕之 足立 洋心 大野 貴志	
	予防接種		細田 板村 (予約)	久保田	板村	細田		
特殊外来	肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 細田 千佳 板村 真司	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害 一般小児科
	睡眠時無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約)			
	息切れ外来		呼吸器内科 担当医(予約)					
	喘息 アレルギー外来					池田 (予約)		
	咳嗽外来					池田 (予約)		
	禁煙外来				毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)			
	アスベスト 外来		小林 (予約)	木村 (予約)	門脇 (予約)			
	嚔下障害 外来		下山 (予約)					
	神経難病 外来		下山		足立芳樹			
	筋ジストロフィー 専門外来				下山 (予約)			
その他	セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		

診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30  
自動再来受付 7:30~11:00


 独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター  
 呼吸器病センター  
 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号  
 電話 (0852) 21-6131(代)  
 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671  
 医療連携室 F A X (0852) 24-7661

特殊外来	小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15:00~16:30 (要予約) 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,250円(+喀痰検査で6,300円)
	睡眠時無呼吸	診療日：毎週木曜日 14:00~16:00 (要予約) 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週月・火曜日 13:00~15:00 (要予約) 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息 アレルギー外来	診療日：毎週月・金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9:00~12:00 (要予約) 内容と特色：3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10:00~12:00 (要予約) 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8:30~11:00 (要予約) 内容と特色：石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	嚔下障害外来	診療日：毎週火曜日 8:30~ 嚔下障害外来 (要予約)
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 8:30~ 神経難病外来
筋ジストロフィー専門外来	診療日：毎週木曜日(予約=指導室まで) 8:30~ 内容と特色：筋ジス病棟医が診療に当たります。診断から在宅ケアのための医療や介護・福祉サービスの紹介など専門的、総合的外来です。在宅患者に必要な定期的精査短期入院(筋ジスドック)も受け付けています。	
	セカンドオピニオン外来	診療日：(完全予約制) 紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。